

●●● 病院ニュース ●●●

# しろうさぎ



島根大学  
SHIMANE UNIVERSITY

2012.4.1  
第28号



## 井川病院長就任挨拶

### B病棟改修工事が完了しました

A病棟 I 期改修期間の病床について  
第2 H C U の運用について  
本移転した外来診療科の紹介  
外来改修（第2ステージ）に伴う移転計画

- 目次 -

病院長就任挨拶	1P
B病棟改修工事が完了しました	2P
A病棟I期改修期間の病床配分・配置が決まりました	3P
第2HCUの運用について	3P
精神科神経科	4P
新たな外来での診療に向けて	4~5P
「眼科外来本移転しましたよ。」	5P
移転して新しくなった麻酔科外来のご紹介	6P
！！ 歯科口腔外科外来 完全リニューアル !!	6P

外来改修(第2ステージ)に伴う移転計画について	7P~9P
地域医療支援センター基本設計について	10P
平成24年度計画が決定しました	11~12P
平成24年度 病院経営改善目標値	13P
平成24年度診療報酬改定の概要	14P~15P
島根大学医学部附属病院が出雲医療圏の地域災害医療センターとして災害拠点病院に指定	16P
安定ヨウ素剤「ヨウ化カリウム丸」を備蓄します	16P

うさぎ保育所の入所定員を増員しました	17P
校費患者規則が変わりました	17P
診療助教について	17P
「データセンターの新体制について」	18P
新ワークライフバランス支援室長の抱負	18P
本院専用の「島大病院思いやり駐車場利用証」を作成しました ~ 整形外科内尾教授の肝煎りで実現 ~	19P
「院内の研修会、講演会情報の一元化について」	20P
検査部新検査システムについて	21P
当院で行った脳死下臓器提供による腎移植術の報告	21P~22P
睡眠障害があり 睡眠導入剤を内服することに躊躇する患者 さんに朗報です！	22P

第5回島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催	22P~23P
平成23年度「日米地域医療教育シンポジウム」を開催しました	23P
「内科系医師と学生との交流会」の報告	24P
「ニュージーランド海外研修に行ってきました」	24P~25P
働きやすい病院として認定	25P
平成23年度病院長表彰	26P
山口拓也助教が最優秀指導医賞！！ インセンティブポイント 最高点を獲得！！	26P
クランクに対する教育研修を実施しました	27P
3月に2つのイベントを6C病棟で行いました	28P
病院ボランティアさんの表彰並びに記念品の贈呈について	29P
ボランティア活動について	29P~30P
病院運営委員会の報告	30P
研修会・講演会・学会等のお知らせ	30P
特別室のご案内	31P

## 病院長就任挨拶

病院長 井川 幹夫

4月から専任の病院長として島根大学病院の運営を担当することになりました井川幹夫です。これまで7年間改革担当副院長として主に病院再開発を担当し、皆様には大変お世話になりました。島根県の地域医療の現状を踏まえて、地方に存在する大学病院のあり方を常に考え、これまで小林祥泰学長が病院長として構築、実践された様々な取り組みを継続・発展させ、大学病院としての使命を果たす所存ですので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

これから3年間の病院運営の概略ですが、国際的視点を持つ優れた地域医療人の養成、医師等のキャリア形成支援、総合医養成システムの本格稼働、先進的医療の提供、地域医療の最後の砦機能の維持・推進、救急医療体制の拡充、災害医療への対応、地域医療政策の提言などを通じて島根県の地域医療に貢献します。さらに職員の意見を反映した戦略的運営、今年度末に病院再開発を完了すること、債務償還計画の堅実な実行、働きやすい職場づくり、地域コミュニティとの交流、広報活動の強化などにより病院運営と職場環境の改善を推進いたします。

今年度は、A病棟改修中の病床数減少が病院経営に大きな影響を及ぼし、経営的に厳しい状況が予測されますので、病床の効率的な運用をさらに進め、手術件数の増加などを図る必要があります。一方では、新病棟



(C病棟)に改修後のB病棟が加わり、質の高い医療と療養環境を提供する体制が整います。特に救急部を活用しながら、大田総合医育成センターと連携して総合医養成を行うこと、また今回採択されたがんプロフェSSIONAL養成基盤推進プランによるがん専門医療人、特に緩和ケアに従事するスタッフの養成等を推進することが重点目標となります。いずれにしましても今年度は、再開発終了後パワーアップした病院がフル稼働する来年度に向けて力を蓄える段階です。教育、診療および病院運営などについて、先進的かつユニークな提言をお寄せください。

何卒よろしくお願いいたします。

### 理念

地域医療と先進医療が調和する大学病院

目標 患者さんの視点に立った医療の提供  
安全・安心で満足度の高い医療の実践  
人間性豊かな思いやりのある医療人の育成  
地域医療人とのネットワークを重視した医療の展開  
地域社会に還元できる臨床研究の推進



C病棟(新築)

B病棟(改修完了)

A病棟(改修中)

## B病棟改修工事が完了しました

施設整備課 吉田 泰樹

昨年7月より着工したB病棟の改修工事は本年3月末に完了しました。工事中には壁の解体作業などによる大きな騒音で患者さん、病院関係の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。改修した病棟の一部を写真と共に紹介したいと思います。改修後の病室は、エアコンによる24時間空調が可能となり、ワードローブやナースコール、縦型コンソールの設置、壁や床のトーンもC病棟と統一されました。スタッフステーションも、以前のガラス貼りからオープンカウンターとなり、開放的な印象です。室内中央部にはすでに稼働中ですが、大型気送子を搬送する新型エアシューターのステーショ

ンも配置されて、建物の外壁も一新し、明るい印象を与えるおもむきとなりました。ベランダ部分には窓からの景色を損なわないよう開発された鳩よけ専用ネットを全面に敷設しました。病棟のエレベータも3台の内2台がリニューアル完了となり、乗り心地も大きく改善されました。改修工事は、1月の外来第1ステージの竣工から検査部や放射線部の居ながら工事の進行、そして今回の病棟第1ステージであるB病棟の竣工と、着実に進んでおります。

今後も引きつづき、A病棟、外来棟改修工事へのご理解とご協力をお願いいたします。



外壁塗装後のB病棟



B病棟廊下



スタッフステーション オープンカウンター



C個室



鳩よけネットの敷設状況

## A病棟I期改修期間の病床配分・配置が決まりました

3月31日には、職員の皆様のご協力により、改修後のB病棟への移転が無事終了しました。この移転に先立ち、A病棟I期改修期間の各科配分病床数と病床配置が3月開催の病院運営委員会で承認されています。配分病床数算出の基礎となる資料については、データセンター（中林情報管理士）に作成を依頼しました。平成22年7月から平成24年1月までの各科別入院患者実績、在院日数はDPCの入院期間を基準に、一般病床稼働率を85%

入退院管理センター 井川 幹夫

として各科の配分病床数を算出し、病棟への配置案を決定しました（表）。引き続き、適正な病床運用をお願いします。なお今年11月以降のA病棟I期改修期間、来年4月の病棟フルオープン以降の病床配分・配置についても同様な方法で決定する予定で、今後は病床必要度の変化に応じて配分病床数・配置を定期的に見直すことを考慮しています。

一般病床配置 H24.3.31 ~ H24.11.2

階数	診療科	配分病床数	A病棟	B病棟	C病棟 (7.8.9F)
8	耳鼻咽喉科	14		12	2
	眼科	13		11	2
	循環器内科	15		13	2
	腫瘍センター	3			3
	共通			6	
7	心臓血管外科	9		6	3
	消化器外科	37		24	13
	共通			12	
6	呼吸器外科	10		7	3
	脳神経外科	15		13	2
	整形外科	25		22	3
5	(精神科神経科)	(30)		(30)	
4	内分泌・代謝内科	8		7	1
	血液内科	19		2	17
	膠原病内科	4		3	1
	呼吸器・化学療法内科	18		11	7
	腎臓内科	4		4	1
	放射線科/放射線治療科	1		1	1
	歯科口腔外科	5		5	1
	共通			3	
	3	消化器内科	19	16	
肝臓内科	7	6		1	
神経内科	16	10		6	
皮膚科	7	7		1	
共通		11			
産科	8		8	1	
婦人科	15		12	3	
泌尿器科	20		15	5	
麻酔科	1		1	1	
	計	293	50	198	77+

## 第2HCUの運用について

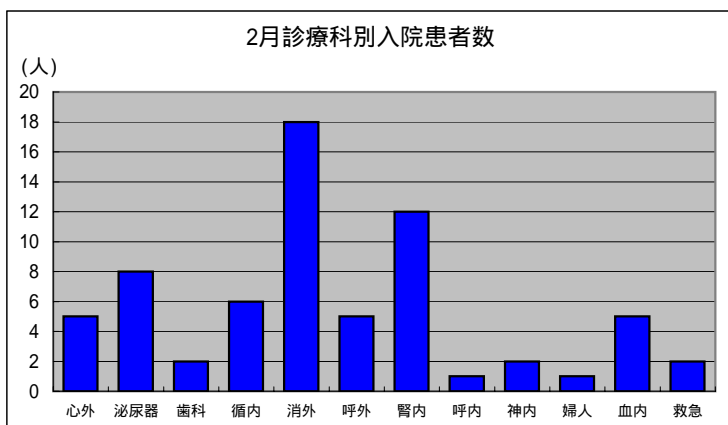
平成24年2月1日に、ICUの東側に計6床の第2HCUが運用開始いたしました。永田看護師長以下、看護師は15名で、日勤7名、夜勤2名の4:1看護体制で、主治医の指示の下、患者さんの安寧と早期回復に努めております。従来ICUから、あるいは直接MCUや一般病棟に入室していた術後患者さんのうち、MCUや一般病棟ではマンパワーの関係から対応が困難と思われる患者さんを中心に受け入れを行っています。6床全てが半個室であり、安静が必要な患者さんにとって重要な空間となっています。また5月下旬の新透析室完成までは、1~2床を血液透析患者用に優先割り当てをしています。2月の運用状況は表に示す通りです。皆様のご協力のおかげで順調に運用されております。

近い将来、当院が救命救急センターの指定を受けた際には、現在のHCUが救命救急センター病棟となるため、第2HCUの“第2”が取れて、HCUとなる予定です。

救急部 橋口 尚幸

その場合も、受け入れ対象には変更ありません。

引き続き皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



2月の平均在院日数は3.0日、稼働率は58%

## 精神科神経科

精神科神経科 和氣 玲

ストレス社会の到来。職場、学校、家庭などで落ち着けない、不調、不眠など、様々な精神的、身体的な不調が増加しております。早期に適切な診断と治療を開始することが大切です。これがメンタルヘルスです。当科では、そのような精神的不調に対して、今回の外来移転と共に、従来の一般外来の充実のうえに、下記のような専門外来での診療も新しい検査機器も導入しレベルアップいたしました。今後も専門的な診断と治療を行い、いきいきとした日常生活を送られることを支援いたします。

### A) 外来診療

#### 1) 対象疾患

一般外来：精神疾患全般

専門外来

睡眠障害：さまざまな原因で生じる睡眠障害について詳細な検査結果に基づいて正しい診断を行い、適切な治療を行います。

認知症：画像検査、神経心理学的検査などを組み合わせて初期に診断を行い、治療、支援を行います。

児童思春期の問題：思春期に抱える心と体の問題について専門的な立場から診断、治療を行います。

す。

#### 2) 診療予約と紹介状：完全予約制

初診の場合は他医療機関からのご紹介が原則ですので、紹介状をご用意ください。

電話予約可能（精神科・神経科外来；0853-20-2388）

#### B) 入院診療

現在は附属病院B病棟5階（今年中に改築「A病棟8階」予定）にて、一般的な入院加療を行っております。

#### C) 臨床心理士（3人）による心理療法や遊戯療法も、併せて実施しております。

#### D) 専門医など

精神保健指定医 堀口 淳、宮岡 剛、和氣 玲、岡崎四方、安田英彰、長濱道治、家田麻紗、山下智子

日本精神神経学会認定精神科専門医 堀口 淳、宮岡 剛、和氣 玲、岡崎四方、安田英彰

日本睡眠学会睡眠医療認定医 堀口 淳

日本老年精神神経学会専門医 堀口 淳

一般病院連携精神医学専門医 堀口 淳

日本臨床精神神経薬理学会専門医 堀口 淳



精神科神経科外来



遊戯室

## 新たな外来での診療に向けて

島根大学医学部附属病院の昨年夏の新病棟のオープンの後を受けて、外来診療棟の改築、旧病棟の改築工事が順調に進んでいる。本年2月からの耳鼻咽喉科外来の新規オープンに加えて、旧病棟の一部改築が終了し、4月からB病棟8階の改装なった病棟に耳鼻咽喉科の診療拠点を移すことになった。私は平成6年に耳鼻咽喉科の診療科長として着任して以来、従来の耳鼻咽喉科外来と5階東病棟において、多くのスタッフと共に過ごしてきた。外来も病棟も狭いという呪縛から解放されるこ

耳鼻咽喉科 川内 秀之

となく、多くの問題点を抱えながらも皆で工夫をし診療に従事してきた。3月末に言語聴覚士の浜村氏が定年退職すると、17年前の状況を共に知るスタッフは皆無となる。良きにつけ悪きにつけ、長年のスタッフの汗と涙がしみ込んだお馴染みの耳鼻咽喉科外来や5階東病棟は過去のものとなり、小職はとうとう歴史を語る唯一の琵琶法師になることとなった。数え切れぬ出来事とスタッフの顔が走馬灯のようにぐるぐると頭の中をよぎる。耳鼻咽喉科の主任のみならず附属病院

経営改善委員会や戦略会議のメンバーとして長らく病院の有り様を眺めてきたが、正直に吐露すれば、島根を訪れた多くの海外の友人に外来や病棟を一度たりとも見せた覚えがない。最近、外来に受診される馴染みの患者さんから、「外来が見違えるように良くなりましたな。」とお褒めの言葉をよく頂戴する。4月からは病棟でもそのような声を聴きたいものである。病院の建物は、見栄えだけでなく機能の良さで評価されなければならない。奇しくも、来年10月に副鼻腔炎と鼻茸の

国際学会を主催することになり、海外からの耳鼻咽喉科医師が大挙して島根にやってくる。その時に胸を張って病院内の見学ツアーが組めるよう、外見だけでなく優秀なスタッフと卓越した機能を有する外来や病棟でありたいと願うものである。最後に、今回の病院整備の礎となった過去の業績を築いてこられた多くの先輩方と新築・改築工事に腐心された関係各位の皆様には深甚なる感謝の意を表して、筆を擱く。



耳鼻咽喉科外来受付



平衡機能検査室

### 「眼科外来本移転しましたよ。」

病院再開発に伴い、眼科外来は住み慣れた2階の奥のほうから3階へ本移転いたしました。ご存知のように眼科は特殊な診療科です。外来における独自の検査機器の多さは群を抜いているのではないのでしょうか。当たり前のことですが、眼科を受診する患者さんは目が見えにくく、なるべく狭いところを行ったり来たりしないようにしたいのですが、今までは新しい医療機器を置く部屋が充分確保できなかったため、苦労していました。新外来は、受付を隠しているような壁が今一つですが、部屋が増えたので以前よりは機械を合理的に配置できました。その結果、患者さんは受付から視力・眼圧・視野・画像検査などを経て診察室へ向かうという動線が確保され、患者さんの流れを一方向にすることができました。とは言ってもやはり日々様々な例外もあるため、スタッフは常に先を読んで、どうすれば一人ひとりに丁寧な対応をしつつ最も合理的に外来が流れていくかを考えながら、移動する患者さん

#### 眼科 松岡 陽太郎

に目を配りつつ、さらに各自の仕事を行う必要があります。目の前のことだけをするのではなく、複数の要素を頭の中で優先順位をつけ、速やかに実行していくためには各自に高いレベルが求められます。さらに当科は島根県で2か所しかない網膜剥離や急性緑内障、加齢黄斑変性に対応できる施設であり、それらの即日入院・即日手術なども日常茶飯事です。そんな日は外来はともすれば野戦病院のような忙しさになりますが、現在の眼科外来にはクラーク・看護師・視能訓練士・医師、すべての職種に優秀な人材がそろっており、少ない人数ながらもチームワークの良さで何とか乗り切っています。

これからも島根の眼科患者さんにスタンダード・最先端を含めた質の高い医療を提供できるよう、眼科外来スタッフ一同頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



外来・医局スタッフ一同



整然と配置された検査機器類の一部

## 移転して新しくなった麻酔科外来のご紹介

麻酔科 中谷 俊彦

この度、麻酔科外来は同じ3階の西側に移転しました。以前の当科外来診察室はスタッフの移動を重視した設計であり、完全に独立した形態ではありませんでしたが、新外来は3つの診察室を分離独立した設計としています。第1診察室は麻酔科術前診察用で、第2診察室は共用診察室とし、第3診察室をペインクリニック専用としています。第3診察室にはポリクリ室を隣接して、大学病院として重要な学生教育に役立つようになっています。

当科外来の特色として、ペインクリニック専用の処置室を設けていることが挙げられます。この処置室では、ペインクリニックの重要な治療法である神経ブロック療法、光線療法、鍼治療などを行いますが、旧外来と同じく広いスペースを取っています。神経ブロック治療を行う場合にはブロック注射後の安静時間が必要であり、患者さんがゆったりと落ち着いて過ごしていただくことが重要となるためです。全てのベッドは電動式として、患者さんの移動時や治療時の高さ調整が容易に行えます。また、ベッドの間はカーテンによる仕切りができて治療処置時のプライバシーを保つようになっています。さらに、新外来にはペインクリニッ

ク検査室を専用で設置いたしました。この検査室では、ペインクリニックに必要なサーモグラフィー検査、レーザー血流計による末梢組織血流量測定、患者さんの痛みをより客観的に把握するためのペインビジョンによる「痛み度」測定、末梢神経の感覚を神経線維別で調べる電流知覚閾値検査などを行います。

新麻酔科外来では、ペインクリニック・緩和ケア、術前診察とそれぞれの領域で患者さんに優しい診察・治療を目指していきたいと考えております。



## ！！ 歯科口腔外科外来 完全リニューアル ！！

歯科口腔外科 石橋 浩晃、上野 繭美

病院の改装により歯科口腔外科外来が、完全にリニューアルしました。新しい外来には予診室、手術室、インプラント治療室、矯正治療室、そして4つの診察室などが機能的に配置され、全ての部屋で患者さんの治療内容に応じた専門的な治療が行えるようになりました。

新外来での診療開始により、内科的治療を専門とするオーラルメディシン、手術を専門とする口腔外科、インプラントを専門とするインプラントセンターの3チームに、スタッフを編成しなおしました。現在、お互いに連携しながら専門診療をすすめています。特に口腔の内科的治療を担当するオーラルメディシンには最も多いスタッフを配属し、舌・口腔や顎の痛み・不

快感、口腔の乾燥、味覚の異常、粘膜の異常など、多彩な症状を呈する疾患について、多角的な治療をしています。改善しない口腔の異常について、お気軽にご相談ください。専門スタッフが親切に対応します。また、手術中の痛みや不安を和らげて安心して治療をうけて頂ける吸入麻酔や静脈麻酔装置を導入し、患者さんの負担を軽減しましたので、口腔外科の手術やインプラント治療を安心して受けて頂けます。そして、4月からは国内あるいは県内各地で十分な経験を積んだ大勢の専門スタッフが加わり、診療がさらに充実します。

進化した歯科口腔外科は、専門スタッフによる安心医療を、自信を持ってご提供いたします。



受付・待合室



4診察室の機能的な配置



## 外来改修(第2ステージ)に伴う移転計画について

病院開発担当 渡部 晃

外来・中央診療棟の改修工程にあわせ第2ステージの移転準備が始まります。移転は、5月26、27日に本移転6月2、3日に仮移転を下記の通り予定しています。

1月の第1ステージの移転では、7診療科、1部門の本移転と2診療科3部門の仮移転が実施されました。本移転箇所では明るい雰囲気の中で診療が行われています。サイン表示は仮のままですが、第2ステージ本移転時には全てカラフルなサイン表示になります。

第2ステージの移転では、4診療科、5部門等の本移転と1診療科、3部門等の仮移転が実施されます。第2ステージが完了すると診療科の半分以上の改修が完了することとなります。一方、検査部では全改修工程10工区の内、5月末で第4工区の居ながら改修が、また、放射線部では全改修工程7工区の内、6月中旬で第3工区の居ながら改修が終了する予定となっており各工区完成時に移転が実施されています。



第1ステージ本移転後の診療科



旧薬剤部跡に仮移転中の  
リハビリテーション部



居ながら改修中の検査部内部  
新しい検査機器等が順次稼働しています

### 今後の移転スケジュール

移転区分	平成23年度			平成24年度												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
外来移転(第1ステージ)	完了															
病棟関連移転																
B病棟移転																
外来移転(第2ステージ)																
外来移転(第3ステージ)																
A病棟 期移転																
外来移転(第4ステージ)																
外来移転(第5ステージ)																
A病棟 期移転																

第2ステージ移転日  
本移転 5/26(土)27(日)  
仮移転 6/2(土)3(日)

## 第2ステージでの移転診療科・部門等

病院階	診療科・部門	本移転	仮移転	移転元
2 F	内科			外来3 F (仮)
	皮膚科			外来3 F (仮)
	小児科/小児外科			外来2 F / 外来1 F
	泌尿器科			外来2 F
	血液浄化治療部			機器保管場所 (3 F)
	卒後臨床研修センター			A病棟1 F
3 F	外来化学療法室			外来1 F
	腫瘍センター外来			外来1 F
	緩和ケア外来			
	患者サロン			外来1 F
	外科			外来1 F
	医療サーブス課(病歴・がん登録)			電算棟2 F
4 F	看護部ロッカー室			A病棟2 F

## 病院2 F

外来・中央診療棟の2階部分では、主に北側部分の改修が完了します。小児科(小児外科含む)、皮膚科、内科、泌尿器科、血液浄化治療部が本移転します。また、卒後臨床研修センターがB病棟2階部分に仮移転します。B病棟では、医師当直室等が4月中旬に完成し4月23日から使用開始される予定となっています。



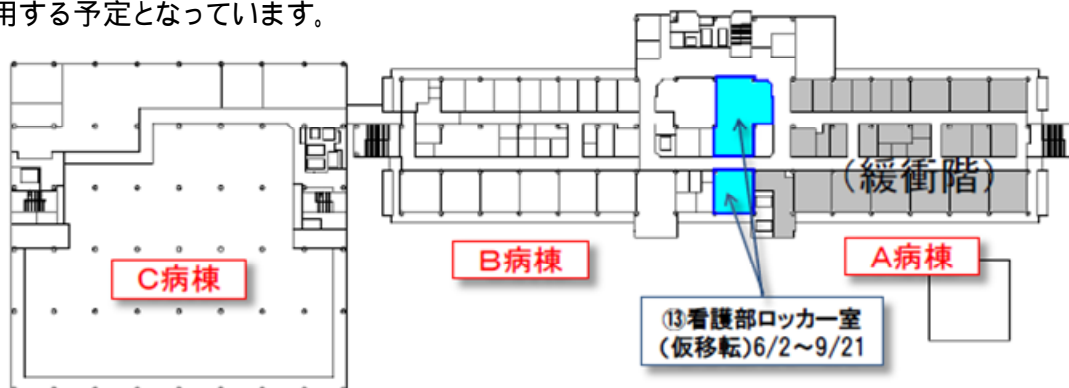
## 病院3F

外来・中央診療棟の3階部分では、北東側部分の改修が完了します。外来化学療法室、腫瘍センター外来、緩和ケア外来、患者サロンが本移転します。また、皮膚科が仮移転していた部分に外科が、産科・婦人科の南側の病院共通スペースに医療サービス課(がん登録)が仮移転します。



## 病院4F

病棟2階部分にある看護部のロッカー室周辺が改修エリアとなるため、A病棟4階(緩衝階)に看護部ロッカー室が仮移転されます。また、この階では、改修工事に伴う各設備の保管場所としても利用する予定となっています。



今後、診療科・部門等とのヒアリング、外来移転実施WG等で移転スケジュールの詳細について詰めていきます。

また、病院全体の工事工程等については、「病院再開発工事通信」を配信しておりますのでご確認をお願いいたします。

病院再開発事業完了まで後一年となりました。仮移転等でご不便をおかけいたしますが、今後とも皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 地域医療支援センター基本設計について

施設企画課 石川 俊行

外来・中央診療棟北西側（現在は駐車場）に整備予定の島根県と本学に設置された「地域医療支援センター」は、

若手医師の県内定着の促進を図る

地域の中核病院においてキャリアアップができるような指導体制の整備

がん医療人育成

の3点を重点に、その拠点となるよう島根県の補助を受け計画されました。建物は鉄筋コンクリート造4階建延べ面積 2,400 m<sup>2</sup>です。1～3階は外来・中央診療棟と渡り廊下で接続します。

1階は、建物のメインアプローチとして事務室と地域医療支援サロンを置き、卒後臨床研修センターの初期研修医関係諸室を配しました。これは主に 若手医師の県内定着の促進を図るためのものです。

2階は地域医療支援学講座及び総合医療学講座を置き キャリアアップ指導体制の整備を推進します。

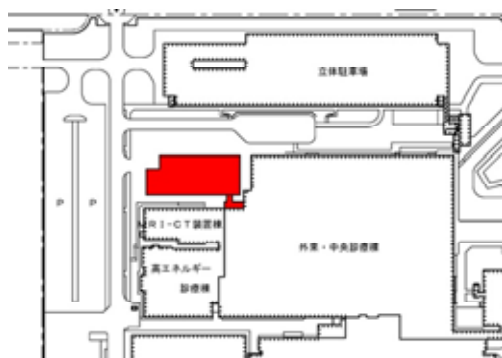
3階は がん医療人育成を目指し、腫瘍センター、呼吸器・腫瘍臨床学等がん診療関連部門を置きました。腫瘍外来及び外来化学療法室が、改修工事により外来・中央診療棟3階に移転することから、連携強化を図るため同一フロアとしています。

4階は100人程度収容できる臨床研修室を設けました。ここにはテレビ会議システムを導入し、県内関連病院に研修内容を配信する予定です。

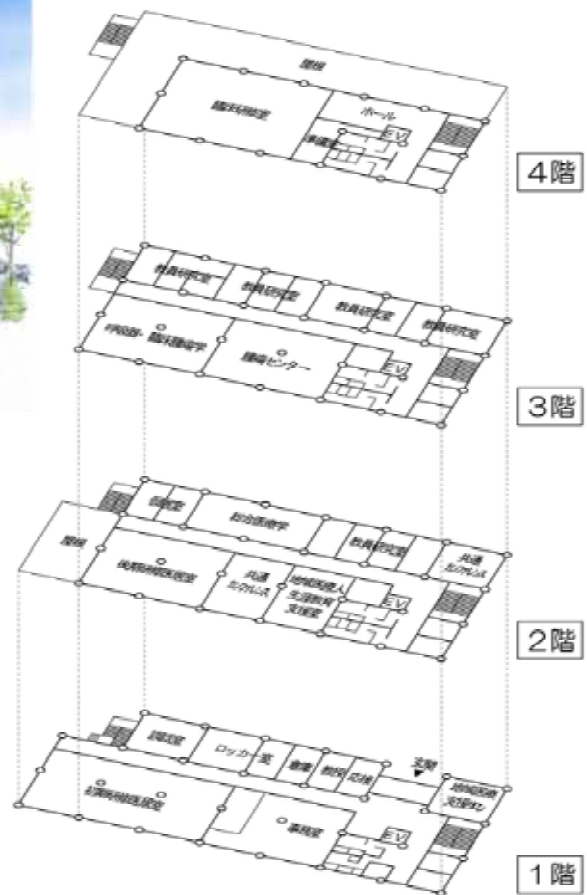
建物は本年6月から工事を行い、病院改修工事と同じく平成25年3月完成予定です。



完成予想図(北面)



整備予定場所



## 平成24年度計画が決定しました

第2期中期目標・中期計画期間（平成22年度～平成27年度）に係る平成24年度計画が、下記のとおり決定しました。

この計画は法人化後、各国立大学が策定したそれぞれの中期目標・中期計画を確実に実施し発展を図るため、当該年度の実施事業を具体的に定めたものであり、本院独自に設置した各種センター及び寄附講座等が取り組む事業や、病院再開発事業により整備・充実

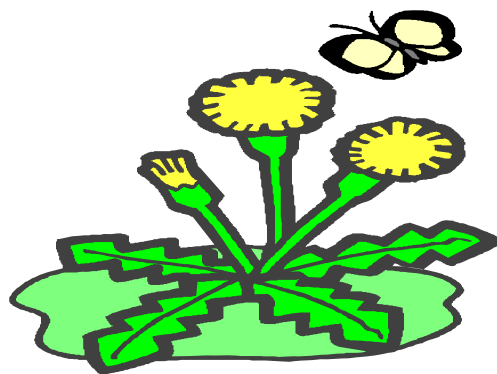
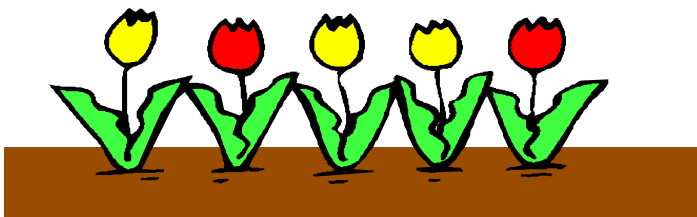
中期目標中期計画検討委員会 附属病院部会  
した高度な医療施設・設備を活用する事業など、全18事業が掲げられています。

関係部署におかれては、井川幹夫新病院長のリーダーシップの下に全ての事業計画が達成できるよう、積極的な取り組みをお願いします。

なお、平成24年度計画の達成状況は、年度末に報告書を作成することとなりますので併せてよろしくお願

中期目標	整理番号	中期計画	平成24年度計画
グローバルに活躍する能力を有し、地域医療に貢献できる幅広い医療人を育成する。	44	地域医療総合教育センターを中心に、地域に立脚した魅力ある研修を推進するとともに、医療人研修(WWAMI)プログラムの成果を活用し、海外での地域医療研修も加えて、国際的視点を持つ医療人育成プログラム「島根モデル」を推進する。	<p>地域医療総合教育センターを中心に、島根県及び地域の臨床研修病院との連携体制を強化し臨床教育を拡充させる。また、引き続き大学病院連携型医療人養成事業の推進を図る。</p> <p>しまね地域医療支援センターを中心に地域医療人の育成と支援を推進するとともに、地域枠関連学生と卒業生を主な対象とし、地域医療関連の各寄附講座等と連携した独自のカリキュラムと海外研修を含む教育プログラムの活用を開始する。</p> <p>医療人養成プログラムの成果に基づき、国際的な視点を持ち、地域の病院で総合医として活躍できる医療人育成と、島根の地域性を活かした魅力ある医療人育成プログラム「島根モデル」を立案する。</p>
		国際貢献できる医療人を育成するため、先進的医療について、特にアジアの諸国との交流を推進・強化し、相互の医療レベルを向上させる。	<p>寧夏医科大学病院と双方向型学術医療交流を引き続き推進するとともに、相互協力が可能な先進医療について「臨床医学交流センター」を中心に臨床研究を開始する。また、交流実績の中間評価を行い、この結果に基づいて臨床領域の協力を計画する。</p> <p>アジア諸国との研究交流を継続し、小児先天代謝異常等の稀少疾患に係る共同研究を推進する。</p>
島根県の医療の中核として臨床研究を推進するとともに、より安全、安心かつ質の高い医療提供体制を構築する。	46	附属病院再開発等により、救急体制の強化を含む地域医療連携の推進と、大規模災害時にも十分機能する医療機能を確保するとともに、島根県における最重要基幹病院としての機能強化と先進医療の充実、及び地域を含めた医療安全と個人情報保護を推進する。	<p>救命救急センター設置に向けて関係機関への申請を行うとともに、研修医への救急教育の推進を図る。また、ドクターヘリコプター等の県内救急搬送業務を支援する。</p> <p>② 災害拠点病院としての指定を受けて、院内の防災体制整備を更に進め、地域住民と連携した災害対応体制を構築する。また、二次被ばく医療機関としての指定を受けて、院内の体制整備を図る。</p> <p>③ 精度の高い放射線治療及び安全な外来化学療法を行うことにより、患者に優しいがん医療を展開するとともに、県内のがん診療連携拠点病院間における医療支援事業を推進する。</p> <p>④ 島根県における最重要基幹病院として、整備拡充した最新機能の施設で高度で先進的な医療を展開する。</p> <p>⑤ 病院医学教育センターを中心に医療安全支援体制を強化するとともに、チーム医療と感染対策を含む医療安全の再点検を実施する。また、島根県下の医療施設に対し、医療安全及び感染対策の連携・強化へのネットワークの構築に向けた活動を展開する。</p>

中期目標	整理番号	中期計画	平成24年度計画
島根県の医療の中核として臨床研究を推進するとともに、より安全、安心かつ質の高い医療提供体制を構築する。	47	疾病予知予防拠点と附属病院腫瘍センターが連携し、「未病」対策も含めた臨床研究を通じて先進的な生活習慣病及びがん診療体制を提供する。	生活習慣病の予防プログラムを活用し、県内医療機関や地域行政機関と連携を図り、生活習慣病・がん対策及び小児障害発生予防対策を推進する。
			新病棟の腫瘍センターと緩和ケア病棟において、チーム医療による先進的ながん治療と、患者に寄り添う緩和ケアを推進する。
			第一期がんプロフェッショナル養成プラン（がんプロ）の成果を基に、平成24年度から新たに第二期がんプロを開始し、がん医療人の養成をより一層推進する。
ワーク・ライフ・バランスを重視した、働きやすい職場環境の確立と効率的な病院運営を推進する。	48	全国で唯一「ISO14001」と「働きやすい病院評価」の認証を受けている大学病院として、環境に配慮し、かつ、男女共同参画を推進し、就業形態の改善を目指すとともに、病院経営企画戦略会議を中心に経営分析に基づいた戦略的なプロジェクトを展開する。	既設病棟、外来中央診療棟整備に当たり、快適な病院環境の構築に向けて整備計画を進める。
			働きやすい病院評価の審査結果を踏まえ、引き続きフレキシブルな勤務体制等により働きやすい職場環境の維持と、職員を対象とした福利支援事業の充実を図る。
			新病棟及び既設病棟等の各施設の効率的な運用を図るとともに、経営分析に基づいた戦略的なプロジェクトを展開する。
管理的経費の抑制を図り、その結果を教育・研究の実施体制の整備に反映させる。	65	管理的経費の抑制を図り、その結果を教育・研究の実施体制の整備に反映させる。	新設したデータセンターによる分析に基づき、新病棟の各施設及び改修が終了した既設病棟・外来中央診療施設等を効率的に運用し、病院収入の増収を図る。



# 平成24年度 病院経営改善目標値

## 病院経営企画戦略会議

平成24年3月13日開催の病院経営企画戦略会議において、平成24年度病院経営改善目標値を決定し、3月14日開催の病院運営委員会で了承となりました。

今年度は、昨年6月末にオープンした高機能施設を備えたC病棟及び4月に改修を終え全棟オープンしたB病棟や段階的に改修を終えオープンするA病棟の効率的な使用により増収を図るため、病床稼働率と診療単価を病棟毎に設定しました。また、手術室が1室増の全10室で運営できることから、新たに手術件数の目標値を設定するとともに、患者サービスの向上や地域医療機関等との連携強化をより一層推進するため、紹介率など各種目標値を設定しております。

今後、病院再開発事業経費の償還等を踏まえ、より一層の効率的な病院経営が求められることから、各診療科等においては、目標値達成に向けてご協力をお願いします。

また、本年度重点的に取り組む事業として、教育・診療・運営改革と医療資源の有効的な活用に係る目標を設定しておりますので、関係部署では目標値達成に向けて併せてご協力をお願いします。

### 1. 収益からの病院全体目標値について

区分	目標値	参 考		
		23年度実績	22年度実績	21年度実績
入院診療単価	(全体)64,500円 (A B病棟)47,000円 (C病棟)96,000円	(全体)61,686円 (A B病棟)45,348円 (C病棟)93,789円 (全体請求額)58,305円	51,780円	48,596円
病床稼働率	継続的に維持 (全体)80%以上 (A B病棟)83%以上 (C病棟)76%以上	(全体)77.3% (A B病棟)80.6% (C病棟)71.4%	(全病床)80.5%	(全病床)80.0%
一般病床平均在院日数	13日 24年度末までに	14.2日	16.1日	16.4日
一般病床年間新入院患者数	9,600人以上 (月平均800人)	8,940人 (月平均745人)	10,160人 (月平均847人)	9,875人 (月平均823人)
年間手術件数	5,200件以上	4,814件	5,150件	5,100件
紹介率	70%以上 24年度末までに	68.6%	64.8%	60.0%
逆紹介率	50%以上 24年度末までに	43.0%	41.8%	38.6%
院外処方箋発行率	93%以上 年度平均	90.1%	89.8%	89.3%
医療費率	35.5% 年度平均	35.6%	33.9%	36.4%

注) 参考欄の23年度実績は、23年4月～24年2月の実績値である。

なお、年間新入院患者数及び手術件数は、実績値を基に23年度年間見込み数を推計した。

また、入院診療単価欄の23年度は、新病棟が開院した23年7月～24年2月の実績単価である。

### 2. 教育・診療・運営改革と医療資源の有効的な活用に係る目標

大学病院連携型高度医療人養成プログラムの計画的な事業展開と医療人養成の推進

各診療科、中診・特診の連携体制を基としたチーム医療の推進

救命救急センター設置に向けた取り組みの推進

既存病棟及び外来中央診療棟の各診療・治療施設の強化・充実

手術部手術室の効率的な使用に向けた体制強化

地域医療連携センターの下に地域医療機関等との連携強化

安全マニュアルの活用や研修会の開催等により医療安全対策の強化・充実

看護職員の確保対策の強化・推進

災害拠点病院及び二次被ばく医療機関として災害対応体制の構築

医薬品費、医療材料費の経費削減

は現時点、本院で算定可能な項目

**基本方針**

**重点課題1 医療従事者負担軽減**

- 救急・周産期医療の推進
- 病院医療従事者の勤務体制の改善等の取組
- 救急外来や外来診療の機能分化
- 病棟薬剤師や歯科医師等を含むチーム医療の促進

**重点課題2 医療介護連携等の推進**

- 在宅医療を担う医療機関の役割分担や連携の促進
- 看取りに至るまでの医療の充実
- 在宅歯科・在宅薬剤管理の充実
- 訪問看護の充実、医療・介護の円滑な連携

**医療技術の導入等**

- 医療技術の適切な評価、がん医療や生活習慣病対策、リハビリの充実、生活の質に配慮した歯科医療
- 医療安全対策、患者への相談支援対策の充実
- 病院機能にあわせた入院医療、慢性期入院医療の適正評価、医療資源の少ない地域への配慮、診療所の機能に応じた評価
- 後発医薬品の使用促進、長期入院の是正、市場実勢価格を踏まえた医薬品等の適正評価など

**救急外来や外来診療の機能分化の推進**

- (救命救急センターに患者が集中しない仕組みの推進)
- (新) 夜間休日救急搬送医学管理料 200点(初診時)
- (新) 院内トリアージ実施料 100点(初診時)

(患者が医療機関の事情によらず、自らの意思により2科目の診療科を受診した場合の同一日の2科目の再診の評価)

- 再診料 34点(同一日2科目の場合)
- (新) 外来診療料 34点(同一日2科目の場合)

**チーム医療の推進**

- (臓器移植後、造血幹細胞移植後の医学管理の評価)
- (新) 移植後患者指導管理料
- 1 臓器移植後の場合 300点(月1回)
- 2 造血幹細胞移植後の場合 300点(月1回)
- (外来緩和ケアチームの評価)
- (新) 外来緩和ケア管理料 300点(月1回)
- (薬剤師の病棟における業務に対する評価)
- (新) 病棟薬剤業務実施加算 100点(週1回)

**周術期における口腔機能の管理等**

- (新) 周術期口腔機能管理計画策定料 300点
- 【周術期における一連の口腔機能の管理計画の策定を評価】
- (新) 周術期口腔機能管理料( ) 190点
- 【主に入院前後の口腔機能の管理を評価】
- (新) 周術期口腔機能管理料( ) 300点
- 【入院中の口腔機能の管理を評価】
- (新) 周術期口腔機能管理料( ) 190点
- 【放射線治療や化学療法を実施する患者の口腔機能の管理を評価】
- (新) 周術期専門的口腔衛生処置 80点
- 【周術期における入院中の患者の歯科衛生士の専門的口腔衛生処置を評価】

**在宅療養指導管理料の見直し**

- (在宅小児経管栄養法指導管理料の新設)
- (新) 在宅小児経管栄養法指導管理料 1050点

**在宅の療養に係る管理料の評価**

- (妊娠中の糖尿病患者の在宅血糖自己測定(SMBG)に基づく管理の評価)
- (新) 在宅妊娠糖尿病患者指導管理料 150点

**在宅で用いる医療機器に対する管理料の新設**

- (植込み型の医療機器による治療に対する管理料の新設)
- (新) 在宅振戦等刺激装置治療指導管理料 810点

**がん診療連携の充実**

- (がん診療連携拠点病院加算の見直し)
- (新) がん治療連携管理料 500点(1人1回)

**生活習慣病対策の推進**

- (糖尿病透析予防指導の評価)
- (新) 糖尿病透析予防指導管理料 350点(月1回)

**医療サービス課**

**感染症対策の推進**

- (院内における感染防止対策の評価)
- (新) 感染防止対策加算1 400点(入院初日)
- (新) 感染防止対策加算2 100点(入院初日)
- (無菌治療室管理加算の見直し)
- (改) 無菌治療室管理加算1(ISOクラス6以上) 3,000点(1日につき)
- (新) 無菌治療室管理加算2(ISOクラス7以上) 2,000点(1日につき)

**患者サポート体制の評価**

- (新) 患者サポート体制充実加算 70点(入院初日)

**在宅緩和ケアの充実**

- (専門的な緩和ケアの評価)
- (新) 在宅悪性腫瘍患者共同指導管理料 1500点
- (高い専門性を有する検査や医学管理の評価)
- 在宅迷走神経電気刺激治療指導管理料 810点
- (新) 時間内歩行試験 560点

**訪問看護の充実について**

- (介護保険の訪問看護との整合)
- (新) 介護職員等略痰吸引等指示料 240点

7対1入院基本料の適正化等について  
平均在院日数

現行	改定後
一般病棟入院基本料 19日以内	一般病棟入院基本料 18日以内
特定機能病院入院基本料 28日以内	特定機能病院入院基本料 26日以内
専門病院入院基本料 30日以内	専門病院入院基本料 28日以内

**看護必要度要件**

現行	改定後
一般病棟入院基本料 1割以上	一般病棟入院基本料 1割5分以上
特定機能病院入院基本料	特定機能病院入院基本料 1割5分以上
専門病院入院基本料 1割以上	専門病院入院基本料 1割5分以上

当院は、看護必要度要件(1割5分以上)を満たしていないが、経過措置の適応となり、平成26年3月31日までの間、7対1入院基本料を算定できる。

**効率化の余地のある入院についての適正な評価**

(退院日の入院基本料について)  
正午までに退院した患者の割合が9割を超える医療機関について、30日以上入院している患者で、退院日に手術や高度な処置等の伴わない場合には、退院日に算定された一部の入院基本料を8%減額、平成24年10月1日から施行

**先進医療からの保険導入**

(現在、先進医療で実施している技術のうち、有効性、効率性等に鑑み23の技術について保険導入)

- インプラント義歯
- 人工括約筋を用いた尿失禁手術
- CTガイド下気管支鏡検査
- 筋強直性ジストロフィーの遺伝子診断
- 抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法)
- 腫瘍脊椎骨全摘術
- 腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術
- エキシマレーザー冠動脈形成術
- 三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療
- 隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査
- 内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
- 先天性銅代謝異常症の遺伝子診断
- 超音波骨折治療法
- 色素性乾皮症の遺伝子診断
- 腹腔鏡下直腸固定術
- 切除手術における画像支援ナビゲーション
- 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術
- 先天性難聴の遺伝子診断
- マイクロ波子宮内膜アブレーション
- 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下膀胱内手術
- 腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術
- 根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援



### 先進医療からの保険導入(歯科)

(広範囲顎骨支持型装置および広範囲顎骨支持型補綴に関する評価の新設)  
広範囲顎骨支持型装置埋入手術

1 1回法による手術	14500点
2 2回法による手術	
イ: 1次手術	11500点
ロ: 2次手術	4500点

### 新規医療技術の保険導入等(歯科)

(上顎骨形成手術及び下顎骨形成手術の項目の追加)  
上顎骨形成術

3 骨移動を伴う場合	72900点
4 骨移動を伴う場合	54210点

### 特定保険医療材料等に係る技術料等の新設

(植込型補助人工心臓(非拍動流型)など22技術, HE-IgA抗体定性(E型肝炎の検査)やレジオネラ核酸検出など12の検査について評価の新設及び見直し)

### コンピューター断層撮影診断料の見直し

(新たな医療機器の開発や撮影方法の登場などの技術の進歩が著しく、診断や治療の質の向上に資するイノベーションを適切に評価する観点から、画像診断撮影の評価体系を見直し、より質の高い診断治療の推進を図る。)

E200 コンピューター断層撮影

1 CT撮影

イ 64列以上のマルチスライス型	950点
ロ 16列以上64列未満のマルチスライス型の機器による場合	900点
ハ 4列以上16列未満のマルチスライス型の機器による場合	780点
ニ イ、ロ、ハ以外の場合	600点

E202 磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影)(一連につき)

1 3テスラ以上の機器による場合	1400点
2 1.5テスラ以上3テスラ未満の機器	1330点
3 1および2以外の場合	950点

### DPCに関する改定

#### 入院基本料等の見直し等の反映

- 入院基本料等の見直しを診断群分類点数表の設定(改定)に反映させる。
- 改定後の包括医療にかかる報酬水準については、改定前の当該水準に改定率を乗じたものとし、医療機関別係数の計算に反映させる。

#### 基礎係数の導入と医療機関群の設定

- 現行の調整係数は、段階的に基礎係数と機能評価係数に置換える。
- 基礎係数の設定は、役割や機能に着目した医療機関の群別に設定。

大学病院本群	(仮)高診療密度病院群	その他の急性期病院群
DPC病院群	DPC病院群	DPC病院群

### 機能評価係数の見直し

- 当該医療機関の入院患者全員に対して算定される加算や入院基本料の補正值等を機能評価係数として係数設定
- 従前の機能評価係数に加えて、「地域加算」「離島加算」(現行出来高評価)を機能評価係数として係数評価
- 出来高報酬体系のデータ提出加算の新設に伴い、データ提出係数のうちデータ提出に係る評価部分を機能評価係数として整理
- その他の入院基本料等加算の見直し等について、必要に応じて機能評価係数に反映

### 機能評価係数の見直し

#### データ提出指数

- ICD-10病名のコーディング評価に関して更なる精緻化
- 効率性指数 複雑性指数 カバー率指数
- 現行の評価方法を継続
- 救急医療指数
- 「救急医療係数」を「救急医療指数」として引き続き評価
- 地域医療指数

- (ア) 退院患者のデータを活用した地域医療への貢献について、地域で発生する患者に対する各病院の患者のシェアによる定量的評価を導入する。

- (イ) 地域医療計画等に基づく体制を評価(ポイント制)についても現状や都道府県の指摘も踏まえ以下のような見直し(下図参照)



### 算定ルールの見直し

- 特定入院期間と薬剤等包括項目の算定ルール  
化学療法を特定入院期間内に実施していないにも係らず、「化学療法あり」等の診断群分類により算定する場合は、当該化学療法薬は別途算定できないこととする。
- 診断群分類点数表の点数設定方法  
特定の診断群分類について、在院日数遅延を防止する観点から、入院基本料を除く薬剤費等包括範囲の点数を入院期間の点数に紐づく設定を試行的に導入する。また、これらに合せて、DPC/PDPS対象施設数の増加や調査の通年化によるデータ数の大幅な増加と、今後の調整係数廃止に伴うより精緻な報酬設定等に対応するための定額報酬計算方式の整理と必要な見直しを行う。
- その他  
診断群分類点数表の適用患者の明確化と高額な新規検査等への対応を実施する。

### DPCフォーマットデータ提出の評価について

- (新) データ提出加算1 (入院診療のみ提出)
- |          |             |
|----------|-------------|
| (200床以上) | 100点(退院時1回) |
| (200床未満) | 150点(退院時1回) |
- (新) データ提出加算2 (入院診療と外来診療を提出)
- |          |             |
|----------|-------------|
| (200床以上) | 110点(退院時1回) |
| (200床未満) | 160点(退院時1回) |
- データ提出加算2は10月より算定開始となる。  
それまでの間は、データ提出加算1(200床以上) 100点を算定する。

## 島根大学医学部附属病院が出雲医療圏の地域災害医療センターとして災害拠点病院に指定

平成23年11月7日付けで島根県から「災害拠点病院」の指定を受けました。

島根県は、災害時の医療体制を確保することを目的に災害拠点病院として、県内に1か所の基幹災害医療センターと各二次医療圏に1か所の地域災害医療センターを災害拠点病院として指定していますが、出雲圏域においては、地域災害医療センターが指定されていない状況でした。

本院は既に災害を想定した免震構造の新病棟、地下水・非常電源の確保、災害対応型立体駐車場、自己完結処理可能な焼却施設、ヘリポート等を整備するとともに、非常食等を備蓄していますが、このたびの指定を受け、災害発生時の広域災害・救急医療情報システムの端末としての衛星携帯電話や緊急用ベッドを新たに整備し、東日本大震災の教訓を生かし、次の通り災害時における医療支援を行います。

災害拠点病院整備事業は、次の災害医療支援機能を有し、24時間対応可能な救急体制を確保する災害拠点病院を整備し、災害時の医療を確保することを目的としています。

総務課 総務担当

- 多発外傷、挫滅症候群、広範囲熱傷等の災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度な診療
- ヘリコプター、救急車等による重症傷病者の受入れ及び搬出を行う広域搬送への対応
- 自己完結型の医療救護チームの派遣
- 地域の医療機関への応急用資器材の貸出し

島根県内の災害拠点病院

基幹災害医療センター

島根県立中央病院

地域災害医療センター

松江圏域 松江赤十字病院、松江市立病院

雲南圏域 雲南市立病院

出雲圏域 島根大学医学部附属病院

大田圏域 大田市立病院

浜田圏域 島根県済生会江津総合病院

益田圏域 益田赤十字病院

隠岐圏域 隠岐病院

## 安定ヨウ素剤「ヨウ化カリウム丸」を備蓄します

当院では、災害対策の一環として医薬品である「ヨウ化カリウム丸50mg」を備蓄することが決まり薬剤部において購入準備をすすめています。

これは、放射線災害に備えて、万が一の時に患者さんなどへの施用を目的とする予防投与薬剤としての「ヨウ化カリウム丸50mg」を常備するものです。実際の施用にあたっては、「施用基準」や「配布対象」あるいは「具体的な対応方法」など運用に関する事項をこれから検討し、体制を作り上げていくこととなります。

購入量は10,000丸を予定しており、これは災害時施用量から換算すると大人5,000人分に相当します。

以下、ヨウ化カリウム丸について記します。

<ヨウ化カリウムの服用目的と効果>

原子炉施設等において、原子力災害が発生した場合、大気中に放射性ヨウ素が放出され、人が吸入し身体に取り込まれると、放射性ヨウ素は甲状腺に選択的に集積するため、放射線の内部被ばくによる「甲状腺がん」などを発生させる可能性があります。この内部被ばくに対しては、安定ヨウ素剤（ヨウ化カリウム丸など）を予防的に服用することにより、放射性ヨウ素の甲状腺への集積を防ぐことができるため、甲状腺へ

薬剤部 小村 直之

の放射線被ばくを阻止・低減する効果があることが分かっています。

<注意>

安定ヨウ素剤の服用により副作用が発生する恐れがあるため、服用に当たっては、十分に副作用に留意する必要があります。（災害時の服用は、ヨウ化カリウム丸の医薬品としての効能・効果としては認められていません。保険診療上は適応外になります。）

<服用回数>

服用は原則1回で、2日目の服用を考慮しなければならない状況では、避難を優先させます。

<服用量>

13歳以上（40歳未満）：ヨウ素量76mg（ヨウ化カリウム量100mg）

新生児や子供の服用では量の調節が必要になるので、「安定ヨウ素剤内服液」などの調製により水薬として投与することも考えられています。しかし、実際の服用にあたっては、安定ヨウ素剤の服用量の厳密な遵守よりも、迅速な予防服用が優先されます。また、重複投与の防止にも注意が必要です。

出典：「安定ヨウ素剤取扱いマニュアル」（財）原子力安全研究協会（平成15年3月）

## うさぎ保育所の入所定員を増員しました

総務課 総務担当

本学医学部附属病院は、平成18年4月1日より保育施設「うさぎ保育所」を開設し運営を行っていますが、最近、医師、看護師等教職員の方々から乳幼児の入所希望が急増し、入所定員50名では対応できないため、平成24年2月1日から61名に増員いたしました。

また、平成24年4月1日からは、更に定員を68名に増員すると共に、これまでワークライフバランス支援室が行っている病児・病後児保育の業務を、一般の保育業務と併せて専門的な業者に委託し、「保育所」と「病児・病後児保育室」との連携により、教職員の子育て支援・女性のための職場作りの一環として更なる充実を図る予定です。

入退所の手続き等につきましては、うさぎ保育所ホームページをご覧ください。

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/usagi/index.html>



ニコニコうさぎマーク

## 校費患者規則が変わりました

医療サービス課 患者サービス室

平成24年3月14日開催の医学部附属病院運営委員会において、「島根大学医学部附属病院校費患者規則」を廃止し、新たに「島根大学医学部附属病院先進医療等教育研究医療該当患者規則」を制定することが承認されました。

平成24年4月1日から施行されますのでお知らせします。なお、主な制定内容は以下のとおりです。

- (1) 校費患者（通称「学用患者」）の名称を廃止し、「先進医療等教育研究医療該当患者」とすること。
- (2) 「先進医療等教育研究医療該当患者」とは、次のとおりとすること。

医の倫理委員会で承認された医学教育に貢献するもの

医の倫理委員会で承認された臨床研究に貢献するもの

（先進医療にかかる臨床研究については、原則として本院が先進医療の承認を受けるまでとする。）

- (3) 「先進医療等教育研究医療該当患者」の病室は、普通室とすること。
- (4) 申請書、承諾書、取消し・中止願及び報告書の様式を変更すること。
- (5) 必要な経過措置を設けること。

規則は、医学部ホームページ<sup>①</sup> 医学部掲示板  
(学部内専用) 規則・規定  
医学部規則集 に掲載しました。

## 診療助教について

総務課 人事労務担当

本学部では、平成18年10月より「島根大学医学部附属病院診療教授等の称号付与に関する要項」を作成し称号の授与を行っておりましたが、平成23年12月28日開催の附属病院運営委員会にて要項の改正を行い、新たに「島根大学医学部附属病院診療助教の称号付与基準」を制定し、医員の方々に診療助教の称号を付与する際の基準を明確化いたしました。

診療助教候補者の資格は、学会誌または査読制度のある内外の学術誌で筆頭著者として論文掲載が1篇以上ある者としています。診療科長及び関係診療科の教授

等が病院長に推薦し、病院長はその推薦内容を確認し診療教授等選考委員会に推薦することとしています。規則等につきましては、下記のURLによりご覧ください。

島根大学医学部附属病院診療教授等の称号付与に関する要項

<http://muw.med.shimane-u.ac.jp/kisokusyu/88-0.pdf>

島根大学医学部附属病院診療助教の称号付与基準

<http://muw.med.shimane-u.ac.jp/kisokusyu/221.pdf>

## 「データセンターの新体制について」

4月から、データセンターが正式に診療支援施設として設置され、それにともないデータセンター専門部会が設置されました。センター長および専門部会長は山口修平副病院長（安全管理担当）、副センター長は、廣瀬病院医学教育センター長と花田医療情報部副部长のお二人です。データマネジャーは、会計課経営支援室の中村専門職員、医療サービス課患者サービス室の中林診療情報管理士の2名で、診療情報データの品質管理と診療指標などの各種統計を統括します。センター員は医療サービス課患者サービス室の診療情報管理士5名（高橋、浅田、近藤、賣豆紀、園山）とデータ管理補助者2名です。

データセンターの主たる業務は、病歴室の管理・運営、および、診療指標の企画及び統計作成、病名やDPC

### データセンター 中林 愛恵

データ等の診療情報を用いた診療、教育及び研究の支援に資する統計の企画及び作成などです。

折しも、厚生労働省は医療施設の質の評価・公表を推進していることから、データセンターでも臨床データを収集分析し、臨床指標を用いた医療の質の評価・公表についても取り組んでいきます。

従来から電子保存診療情報の提供業務は総務課情報管理室職員と医療サービス課病歴担当職員で行っていましたが、加えてデータセンター職員でも行うことができるようになりました。今後とも、本院の医療の質の向上を目指すとともに診療、教育及び研究のため、データセンターを活用いただくよう、ご相談をお待ちしています。（内線：6095、6096、2569）

## 新ワークライフバランス支援室長の抱負

今年度から内田伸恵室長の後任として、室長に就任いたしました。これまで築かれた歴史を受け継ぎ、微力ではありますが役割を担ってまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

これまで島根大学医学部附属病院では、小林祥泰前病院長、内田伸恵前室長を中心に、全国に先駆けてワーク・ライフ・バランスに関してトップクラスの事業展開がなされました。平成18年「女性にやさしい病院WG」の発足以来、院内保育所「うさぎ保育所」の開所、「働きやすい病院」認証取得をしました。平成19年には文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人推進プログラム(医療人GP)」に本学の「新しいキャリア継続モデル事業 - しなやかな女性医療職をめざして」が採択され、女性スタッフ支援室を設置し、情報発信・保育支援・時短勤務提供・キャリア教育・相談窓口の5つの事業が3年間に渡り展開されました。平成22年からは、女性職員だけでなく全ての職員にやさしい病院作りのために、「ワークライフバランス支援室」に改称して事業を行ってきましたが、平成24年度からは一部変更となります。

主な変更点は、以下の3点です。 病児病後児保育室(ニコニコうさぎ)は外部委託になります。 相談窓口では環境改善要望などはこれまで通り受け付けます。その他の相談については、相談窓口を紹介します。カウンセラーによる相談窓口は保健管理センターとなり

### ワークライフバランス支援室 秦 美恵子



ます。 マタニティ白衣のレンタルを始めます。詳細につきましては、ホームページ等でお知らせしていません。

今後、ワークライフバランス支援室は新メンバーで活動を開始することになりますが、院内に働く職員にとってのワーク・ライフ・バランスを全ての職種の皆さんと一緒に考え、実現に向けて取り組みたいと思います。皆さまからのご意見・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 本院専用の『島大病院思いやり駐車場利用証』を作成しました ～ 整形外科内尾教授の肝煎りで実現 ～

### 施設企画課

島根大学医学部附属病院では、平成24年2月から、「一時的な疾病（骨折や病気など）により歩行が困難な方」や、「妊産婦の方」を対象にした、医学部附属病院立体駐車場専用の『島大病院思いやり駐車場利用証』を作成し、交付を始めております。（本院以外の「思いやり駐車場」では利用出来ません。）

この利用証は、主治医の同意があれば即日交付しますし、手続きも簡略化しておりますので、短期の疾患の方に配慮したものになっています。

島根県等の「思いやり駐車場制度」も、一時的な疾病や妊産婦の方への交付は行なわれますが、申請手続きの煩わしさから申請を躊躇される方が多いと感じ取った整形外科の内尾教授より、「大学独自で発行する利用証を設けることができないか。」と小林病院長に相談されたことをきっかけにして作成に至りました。

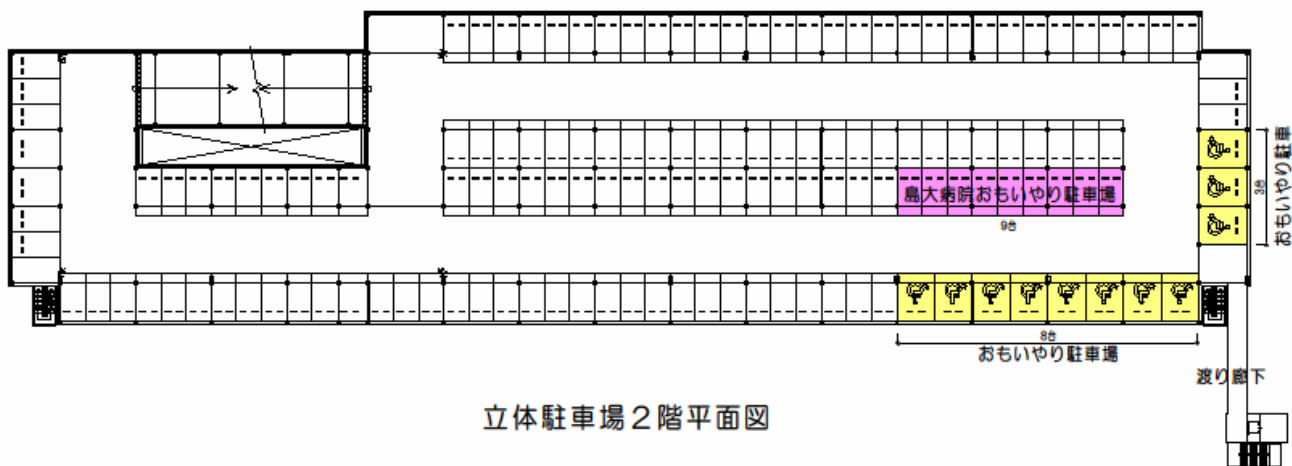
これまでの発行数は3件と少数ですが、交付を希望されます方は、外来診療科に申請書を用意しておりますので、主治医に申し出てください。（申請書にはお名前を記入いただくだけとなっています。）

また、この利用証の交付開始に伴い「思いやり駐車スペース」を9台分拡充し、計20台分を確保しました。

利用にあたっては、島根県等が発行する利用証と『島大病院思いやり駐車場利用証』は同等なものとして取り扱いますので、警備員の指導に従い駐車していただきますようお願いいたします。



発案者の内尾教授



立体駐車場2階平面図

ピンク色の部分が今回追加したところです

# 「院内の研修会、講演会情報の一元化について」

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

従来、医学部ホームページ（HP）に掲載していましたが院内研修会・講演会の開催情報についてお知らせします。複雑化、多様化する医療環境のもとで、院内での研修会・講演会等を効率的、有機的に受講できることを目的に、これら研修会、講演会等に関する情報の一元化に取り組み、その情報を平成21年4月から医学部HPに掲載してきました。しかしながら、これらの情報が学部内限定である、アクセスしにくいなどのご意見がありました。そこで、利用者の利便性を考慮し、掲載方法を変更するとともに病院ホームページへの掲載も追加することに致しました（3月19日付）。

具体的には、図に示しますように「病院HP」または「医学部HP」にアクセスしますと「研修会・講演会・セミナー情報」のメニューボックスが表示されます。（図1）矢印（↓）をクリックしますと研修会・講演会等の開催情報が時系列で表示されます。さらに、（図2）矢印（←）をクリックしますと当該の研修会・講演会の詳細情報が表示されます。（図3）

また、研修会・講演会のホームページ掲載依頼については、従来、文書で受付けていましたが、今回の変更にとともに、時系列の情報一欄の最下部に、「掲載申込先」及び「掲載申込書」の表示を加えましたので、あわせてご利用ください。なお、これら研修会・講演会が大学院（博士課程・修士課程）講義に相当する場合、申込書の当該欄に記入をお願いします。

なお、参考までに今年度4月～12月末までの「研修会・セミナー等」の開催状況とHP掲載数を調査しましたところ、開催回数99件のうち、78件（掲載率79%）が掲載されている状況でした。

研修会・講演会等の情報掲載について、みなさまのご理解とご協力をお願い致します。



(図1.)



(図2.)

## 第7回 鳥根感染対策セミナー

日時：平成24年3月24日（土）  
13：00～17：00（受付開始12：30）  
会場：鳥根大学医学部看護学科 N11講義室

テーマ：新細菌性肺炎を予防しよう  
～感染対策の視点から～

12：30	受付開始
13：00	開会挨拶 代表幹事 鳥根大学医学部 呼吸器・化学療法内科 教授 藤原誠
13：05	トピックス 第2回日本感染症学会参加報告 鳥根立中央病院 大石桂子 山根麗華 出雲市立病院 石川智子
13：20	講演講演① 「新細菌性肺炎の基礎知識」 鳥根大学医学部 呼吸器・化学療法内科 教授 藤原誠 先生
14：30	講演講演② 「新細菌性肺炎の検査・検下リハビリテーション」 鳥根立中央病院 リハビリテーション科 部長 森田智子 先生
15：30	講演講演③ 「口腔ケアのポイント」 鳥根立中央病院 検査・検下検査看護認定看護師 高島裕子 先生
16：30	シンポジウム シンポジスト 鳥根大学医学部 呼吸器・化学療法内科教授 藤原 誠 先生 鳥根立中央病院 リハビリテーション科 部長 森田 智子 先生 鳥根立中央病院 検査・検下検査看護認定看護師 高島 裕子 先生
17：00	閉会挨拶

(図3.)

## 検査部新検査システムについて

検査部 柴田 宏

平成23年度予算で検査システムの更新を行いましたのでその概要について紹介します。前回の更新が平成9年度予算であったので、14年ぶりの更新で最新の設備を導入することができました。最終的には検査部再開発が終わる平成24年度末（平成25年3月）に検査部は生まれ変わります。今回の更新に当たり、最も重要視した目標は「TAT（turn around time：採血から検査して結果報告までの時間）の短縮」、「経済性の向上」、および「新技術の採用と臨床支援」です。今日では外来患者はまず検査を実施し、臨床医は患者のその日の検査結果を見ながら診断、治療効果判定、治療方針の変更、手術適応の迅速判断などを行う診察前検査が通常となっています。従って、TATの短縮は、検査部はもちろんのこと病院機能にとって重要な要素であり、そこに検査部が大きく貢献できることを目標にしています。

新システムでは、これまでの“緊急検査項目”は無くなり、すべての検体に緊急検査対応ができます。休日や夜間の時間外検査項目についても将来的には昼間と同じ検査を24時間できるように考えています。その代り、効率化を図るためには測定に時間を要する検査や特殊な検査機器を使用する項目については事前に診療科の了解を頂いて外部委託検査とする必要もあるでしょう。生理機能検査についても超音波検査装置などを増設して、即日検査実施を増やしていきます。経済性を図るために使い慣れた検査機器の購入をあえて避け、最も迅速で経済性の良い機器を選択しました。この効果については今後検証してゆき、効果が証明され

れば新たな人員配置や増収目的の増員などが行えると考えています。新技術についてはこれからの医療に欠かせない遺伝子検査室を新設し、すべての診療科やスタッフで共同利用していきたいと思います。当面は大学病院として必要な血液疾患などの遺伝子検査や、分子標的治療に必要な薬剤耐性遺伝子検査など、オーダーメイド医療に取り組みたいと考えています。質量分析機器による細菌同定検査も全国に先駆けて採用しました。近年各診療科から検査部との共同研究依頼が急増しており、これからも検査部内の検査機器や技師の分析技術を臨床支援の形で提供し、病院診療・研究の発展に貢献したいと考えています。また、ICT、NST、バスキュララボ、睡眠医療、移植医療、エイズ医療チーム、および環境マネジメント（EMS）などチーム医療にも積極的に参加していきますので、病院スタッフの皆さんのご協力をお願いします。



採血室

## 当院で行った脳死下臓器提供による腎移植術の報告

今回山陰地方初の脳死下臓器提供（本邦で162例目）による腎移植術を行いました。2012年1月23日に独立行政機構高知医療センターで60歳代の男性が脳死と判定され、臓器摘出の運びとなりました。当科も摘出チームに加わり、左右の腎臓を摘出後、片方の腎臓を島根に持ち帰りました。今回の症例は、医学的見地から腎臓以外の他臓器の摘出は断念されました。

高知医療センターまでは陸路で往復約9時間、それに摘出時間が加わり、腎臓を出雲まで持ち帰り腎移植術を開始したのは、1月24日の17時41分でした。移植手術は順調に終了しましたが、阻血時間が長時間に及んだため、腎臓の機能回復までに合計3回の血液透析治療を要しました。その後の経過はきわめて順調で、現在の腎機能はクレアチニン値1.8 mg/dlと良好で患者さんはすでに退院されました。

泌尿器科 有地 直子、三井 要造、椎名 浩昭、井川 幹夫

山陰初の脳死下臓器提供による腎移植術を行い、県内の一人の透析患者さんを透析治療から解放することができましたが、その一方で臓器移植に関する課題も判明しました。今回の症例は高知県で摘出された腎臓を移植したもので、2年前の献腎移植術に関しては香川県で摘出された腎臓の移植でした。島根県の臓器提供数はここ10年間で1例のみという状況で、県内の臓器提供に対する理解は不十分であると言わざるを得ません。今回の腎移植術を通して臓器提供への関心が高まり、島根県の移植医療推進に繋がることを期待します。さらには、他県で発生した腎臓を搬送するための手段としてヘリコプターを導入することにより、腎臓の阻血時間の短縮と医療スタッフの負担軽減を図ることも今後に向けての重要な課題であると考えます。

われわれが試みる最大限の努力は慢性腎不全に陥り血

液透析治療を受けている方々に少しでも多くの腎移植術を行うことにあります。臓器提供意思表示という小さな勇気、ほんの少しの一步が大きな贈り物につながる事実、この認識をみんなで共有してこそ真の移植医



摘出し、当院に持ち帰られた腎臓の移植術の準備にとりかかるところ

療が成立するのではないかと思います。島根県における移植医療の啓発と実践、それこそがわれわれ島根大学泌尿器科医の使命だと考えています。



透析患者さんに腎臓を移植

## 睡眠障害があり 睡眠導入剤を内服することに躊躇する患者さんに朗報です！

消化器内科では大学病院の内科系診療科、県内の病院と連携して睡眠障害の患者さんに胃酸分泌抑制薬を飲んでいただく治療法を研究しています。最近、睡眠障害の原因として逆流性食道炎が大切であることが分かってきました。逆流性食道炎が原因で睡眠障害がおこっている人に睡眠導入剤を使用すると逆流性食道炎が悪化する場合があります。このため睡眠障害を持つ方には、まずより副作用が少ない胃酸分泌抑制薬を短期間使用して睡眠障害が改善するかどうか経過を2週間

消化器内科 木下 芳一

ほど見たほうがよいと考えられます。そこで現在、島根大学内科系診療科では睡眠障害で困っておられる方のどれくらいに胃酸分泌抑制薬の効果があるかを調べています。この研究に参加いただきますと無料で胃酸分泌抑制薬を差し上げる場合があります。患者さんには投薬前後で睡眠障害に関するアンケートに答えていただきます。希望される患者さんは担当の先生にご相談ください。相談を受けられた先生は消化器内科までご連絡ください。

## 第5回島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

去る2月24日（金）今年度で5回目となる「島根大学医学部附属病院経営懇談会」を開催しました。懇談会には、外部有識者として 千葉中央メディカルセンター和漢診療科 部長 寺澤捷年氏（元富山医科薬科大学医学部附属病院長）及び財団法人 星総合病院 理事長 星北斗氏（元日本医師会常任理事）をお招きし、本院からは懇談会委員として、小林祥泰病院長・副病院長及び診療科長等のメンバー13名が出席しました。

当日は、視察として、改修が完了した外来棟3階の産科婦人科外来から新病棟3階手術部、9階女性病棟、6階小児センター病棟、5階緩和ケア病棟、2階MEセンター、ICU、HCU、1階救急部、新たに設置したB病棟1

附属病院経営企画戦略会議  
（会計課経営支援室）

階のAiセンターを案内し、機能的に考慮された病院再開発事業であるとの評価を頂きました。

その後、懇談会を開催し、第4回経営懇談会における提言の取組、病院運営改善状況、高度医療人育成事業の取組、医師確保と地域医療支援の取組、診療体制整備の取組、附属病院再開発事業の進捗状況、災害対策の取組みなど、病院運営全般に亘り、幅広く活発な意見交換が行われ、特に星委員と寺澤委員の両委員から、ニーズに合わせた対応と教育専任看護師の配置やワークライフバランスの整備などの取組みを行うことで、看護師離職率が年々低下していることを大変評価していただきました。



また、星委員からは、地域医療全体の技術及び知識向上を目的としてクリニカルスキルアップセンターを地域医療機関へ開放することや、在宅医療への架け橋として患者家族に対する患者ケアの教育をさらに踏み込んで行うことが、それぞれ患者サービスの向上に繋



< 懇談会風景 >  
(左から寺澤委員、星委員)

がるなどの貴重なご意見をいただき、大変参考になりました。

今後は、「附属病院経営企画戦略会議」を中心に懇談会の意見を参考に、より一層の改善に取り組むこととしています。



< 産科婦人科外来視察風景 >

## 平成23年度「日米地域医療教育シンポジウム」を開催しました

平成24年1月16日（月）17時から、本学臨床大講堂において、医学生や教育関係者を対象とし、1月19日（木）17時30分から大田市の島根県立男女共同参画センター「あすてらす」において、一般市民を対象として「日米地域医療教育シンポジウム」を開催しました。

日本版WWAMIプログラム実施に当たって過去5年以上にわたり多大なる貢献をいただいたシアトルのワシントン大学総合内科のPaauw教授（医師で教育専門の初めての教授でWWAMIプログラム現責任者）を招聘して、米国で40年以上の実績を有し、地域枠入学生の60%が出身地域で医療に貢献するという成果をあげている地域医療人育成のための医学部教育、臨床研修プログラムなどに関するノウハウについて基調講演を頂き、続いて、医学生、研修医、地域医療関係者、地域医療教育関係者等とワークショップ形式で討論会を行いました。



小林前病院長の挨拶(大田会場)

### 卒後臨床研修センター

本学では155名が、大田市では一般市民を含めた約250名が参加いただき、地域医療人育成への関心の高さを知ると共に関連機関の連携をより一層強くすることができました。



Paauw教授の講演(出雲会場)



懇親会で談笑するPaauw教授夫妻(出雲会場)

## 「内科系医師と学生との交流会」の報告

第3回の内科系診療科と医学生との交流会が、平成24年2月16日（木）の夕方から本学の学生会館で開催されました。参加者は学生40名、参加講座は内科系診療科すべてと小児科、放射線科、麻酔科、腫瘍センターの医師61名と大変な盛会となりました。学生とスタッフの普段のコンタクトはチュートリアルや臨床実習が主ですが、この会は医学生にもっと内科系ドクターを知ってもらい、おいしい食事をいただきながら仲良く交流し、医学生に卒後の本学や島根県での臨床研修を考えてもらうことなどを目的としています。いろんな学生さんから目指す医師像や将来の夢など具体的な意見をたくさん聞いて興味深く、私も若返る気分毎回



卒後臨床研修センター  
参加させてもらっています。私達からは「本学にマッチングすると初期研修でどのようなメリットがあり、どのように専門医などをめざしてスキルアップできるか、国内海外留学が全員できる充実した大学病院研修」について詳しく情報提供できたと思います。二次会も大変盛り上がり楽しいひと時を過ごせました。学生さんの「参加してよかった、楽しかった、島根県での研修も考えたい」という言葉にうれしさひとしおでした。

世話人 内科学第三（神経内科）小黒浩明  
主催 卒後臨床研修センター



## 「ニュージーランド海外研修に行ってきました」

去る2月18日（土）～26日（日）にかけ、医科学生2名（5年生佐貫薫さん、安部翔子さん）および初期研修医2名（溝口高志先生、木村倫子先生）とともにニュージーランドのダニーデン（Dunedin）にあるオタゴ大学医学部（University of Otago, Dunedin School of Medicine）での海外研修に行ってきました。オタゴ大学医学部は1875年の創立で世界的にも高い評価を受けています。ご存じのように、本学は日本版WWAMIプログラムとして米国西海岸や豪州での海外研修の実績がありましたが、この度のオタゴ大学での研修は初めてのことでした。

出発日の出雲地方は大雪が心配され、予定より早いで羽田に向かいました。その後成田経由で11時間余りの長旅にも拘わらず、ダニーデンに到着した4名の若者は元気いっぱいでした。空港では、今回の研修の責任者である Vice Dean of Department of General Practice and Rural HealthのJim Reid教授に迎えられ、シャトルバスでExecutive Residence Boutique Hotelに投宿しました。

病院医学教育センター 廣瀬 昌博

翌20日（月）から25日（金）まで学生、研修医および教員のためにそれぞれ研修プログラムができていました。これはJim教授と事務職員のJenny Hurlleyさんのアレンジによるものです。プログラムの主なものは、20日：Jim教授（写真1）によるニュージーランドのHealth Systemの紹介に始まり、午後、病理学チュートリアル、21日：研修医はGilmore先生の研修、2名の学生は救急部門での研修、教員はDept. of GPの各教員と今回の訪問の目的や共同研究の可能性についての情報交換、22日は、昨年のChristchurch地震のメモリアルデーで、全国で犠牲者の追悼の意が表されていました。研修は、午前Skills Lab、午後Anatomy Museumの見学（写真2、3）、夕食はJim教授の自宅での歓迎パーティでした（写真4）。23日：午前BPac（General Physician(GP)を支援するシステム）の見学、24日：Culture Diversityと題したチュートリアルでした。

これらの研修で、ニュージーランドでの医学教育はどれもgeneral practiceに主眼が置かれていることを痛感しました。とくに印象に残ったのはAnatomy

Museumでの見学でCTスキャンやMRI検査のスライスと同様、実際の人体を利用した標本を見たことでした（写真3）。また、BPacは、オタゴ大学医学部が中心となって診療ガイドラインやインシデントレポートシステムなど、GPを支援するシステムで、ここでもわが国の医療制度の違いを感じました。

しかしながら、このように実践を重んじるオタゴ大学にも悩みがあるようです。折角育成した医師が豪州を中心に海外へ流出していくことです。その割合は40%

と高く、その意味ではわれわれ島根大学と同様の社会環境にあることが理解でき、Dept. of General Practice and Rural Healthが存在する理由もその辺にあるのだと実感しました。

最後になりましたが、今回の海外研修について、オタゴ大学や本学卒業後臨床研修センターの関係者のみなさんはもちろんのこと、とくに若槻さんには大変お世話になり、感謝致します。



今回の研修をアレンジしてくれたJim教授(写真1)



Anatomy MuseumのあるLindo Furgason ビルディングの前でJennyとともに(写真2)



Anatomy Museumで熱心に説明してくれるChris Smith先生(写真3)



緑に囲まれた閑静なJim教授のお宅で(写真4)

## 働きやすい病院として認定

本院に3月26日「働きやすい病院」認定証が付与されました。この認定は「女性医師を含むすべての医療従事者が安心して働くことができる病院」という観点からNPO法人ejnetが第三者確認を行い、現実に「働きやすい病院づくり」が進められていると評価される病院を認定するものです。本院は2007年3月に大学病院としては初の「働きやすい病院」の認定を取得していますが、今回更新審査を受け認定されたものです。

今回の認定を機にさらに「働きやすい病院づくり」を推進していきます。

総務課 人事労務担当



ホスピレート認定マーク

## 平成23年度病院長表彰

平成23年度の附属病院の運営に顕著な功績等があったとして、3月21日に個人16名、泌尿器科、会計課の職員が病院長表彰を受けました。

今年度は、山陰初の脳死後提供腎移植（1月）に成功した泌尿器科チームをはじめEMS対応委員会の生活作業部会責任者・実験系作業部会責任者、新病棟の完成に伴い看護部での新たなチーム医療に貢献された方、病院の安全管理病院再開発に携わった会計課チームなど多数の方が受賞されました。

受賞者は次の方々です。

泌尿器科（泌尿器科学講座 椎名 浩昭准教授、有地 直子助教、三井 要造助教）

平野 章二（医療情報学講座 准教授）

天野 祐二（光学医療診療部 准教授）

鬼形 和道（地域医療教育研修センター准教授）

小黒 浩明（神経内科 講師）

谷戸 正樹（眼科 講師）



総務課 人事労務担当  
橋本 龍樹（解剖学講座（発生生物学）助教（学内講師））  
古屋 智英（精神医学講座 助教）  
濱村 亮次（耳鼻咽喉科学講座 助教）  
山本 昌弘（内分泌代謝内科 助教）  
田中 延子（検査部 主任臨床検査技師）  
陶山 多美子（検査部 臨床検査技師）  
竹内 志津枝（検査部 臨床検査技師）  
永田 節子（看護部HCU・第2HCU・救急部 看護師長）  
来間 和美（看護部MCU 看護師長）  
藤江 章子（看護部手術部 副看護師長）  
三原 美津江（医療安全管理室 専任リスクマネージャー）  
会計課（井田 昇課長補佐、渡部 晃専門職員、佐々木 敏幸病院調達係長、目次 裕久係員、西村 修平係員）



## 山口拓也助教が最優秀指導医賞！！ インセンティブポイント最高点を獲得！！

山口拓也助教（神経内科）病院長表彰で最優秀指導医賞を受賞し、今年度から設けた「若手医師（助教・医員）へのインセンティブポイント付与制度」において最高点の96,000ポイントを獲得しました。これにより山口助教には、96千円の研究費が配分されました。

インセンティブポイント96,000ポイントの内訳は次のとおりです。

研修指導実績 前期・後期 各6,000ポイント

総務課 人事労務担当  
計12,000ポイント（基礎ポイント）  
指導医講習会を受講 基礎ポイントの2倍  
 $12,000 \times 2 = 24,000$ ポイント  
研修医が選ぶベスト指導医賞を受賞  
持ち点の2倍  $24,000 \times 2 = 48,000$ ポイント  
病院長表彰で最優秀指導医賞を受賞  
持ち点の2倍  $48,000 \times 2 = 96,000$ ポイント

## クラークに対する教育研修を実施しました

本院では、医師の事務作業にかかる負担軽減を目的として、退院時要約や診療文書の仮作成等を行う医師クラークを養成し、昨年6月から業務を開始しています。負担軽減の促進のためには、医師クラークが効率的に業務を遂行する必要があることから、平成23年9月から月に1回、各テーマに絞った研修会を開催し、幅広い知識の習得および技術の向上を図っています。

この教育研修の一環として、3月1日（木）に外部講師による接遇研修を実施しました。接遇研修は負担軽減という目的からは少し外れるものの、全ての業務は適切な接遇マナーから始まるという原点に立ち、年度内に予定している7回の研修の最後として企画したものです。

### 医療サービス課 患者サービス室

当日は、医師クラーク、病棟クラーク、外来クラーク53名のうち48名の参加がありました。

最初に井川副病院長から挨拶があり、その後、講義が始まりました。講義では、マナーの基本となる「挨拶」、「表情」、「身嗜み」、「態度」、「言葉遣い」の確認を行い、発展系となる電話対応のグループワーキング、ロールプレイングを行いました。僅か1時間でしたが、接遇マナーに関しては、一人でも違反者がいると施設全体の評価に影響を及ぼすということを各クラークが再認識した研修会でした。

今後も各研修会を実施し、クラークのレベルアップを図る予定です。



接遇研修での井川病院長挨拶



接遇研修風景

研修内容	研修目的	講師	開催日	時間		参加人数	参加率
各種診断書・意見書の仮作成について	診断書・意見書の仮作成に必要な知識・技術を習得する	医療サービス課 地域医療連携センター 寄貞 香織	9月2日 9月5日 9月9日 9月30日	16:00～17:00	1時間	50名	94.3%
保健医療制度と診療録記載について	医療制度の概要と診療録記載の原則を知る	診療情報管理士 賈豆紀 裕子	10月26日 11月10日	15:45～16:15 16:15～16:45	30分	47名	88.7%
DPC制度について	DPC制度の概要を知る	包括評価検討WG代表 花田 英輔	12月1日	15:45～16:45	1時間	42名	79.2%
医療安全対策および事故防止について	患者の安全、事故防止、について正しい知識をもつ	医療安全管理室 専任リスクマネージャー 三原 美津江	12月14日	15:45～16:15	30分	44名	83.0%
感染対策について	感染対策について正しい知識をもつ	感染対策専任者(看護師長) 坂根 圭子	1月17日	15:45～16:15	30分	50名	94.3%
守秘義務について	守秘義務に関する正しい知識を持つ	個人情報保護教育責任者 花田 英輔	2月16日	15:45～16:45	1時間	51名	96.2%
接遇について	病院職員としての基本的マナーを身につけ日常業務に活かす	ニチイ学館 山本 聡子 清末 香澄	3月1日	15:45～16:45	1時間	48名	90.6%



## 3月に2つのイベントを6C病棟で行いました

小児科 金井 理恵

3月6日

音楽の好きなお母さんの集まりである“ママサンブル”のコンサートが行われました。ピアノの橋本さん、フルートの宇家さん、歌の森田さんの3人グループです。ビリーブ、ありがとう、ひなまつりを一緒に歌い、マルマルモリモリでは一緒にダンスもしました。最初は聞いているだけだった子どもたちもそのうちに引き込まれていったようでした。生の音楽を身近に聴くことが出来、付き添いのお母さん方も癒されました。



3月13日

松江在住のパフォーマーのさと原人さんのバルーンアートショーが行われました。最初にダイスタッキング（サイコロをカップの中で重ねる）で、みんなをあっと言わせました。楽しいお話やジョークを交えながら、バルーンで何でも作っていくさと原人さんにみんな目が釘付けになりました。小さいバルーンではねずみ、中くらいのバルーンでは人気の犬やウサギを、複数のバルーンを組み合わせ花をつくられた後は、特別なバルーンでワンピースのルフィーとトトロのネコバスを作られた時には歓声が上がりました。最後はそれぞれのこどものリクエストに答えて、トトロ、あんぱんまん、キティーちゃん、ウルトラマン・・・ “みんな難しいことをいうなあ”といいながら本当に何でも作ってくれるさと原人さんに大人も子どもも感激した日でした。



## 病院ボランティアさんの表彰並びに記念品の贈呈について

本院のボランティア活動取扱要項に定める活動を行い、患者サービスに功績のあった個人、団体に対し、平成24年3月7日（水）、小林病院長から表彰状並びに感謝状の贈呈がありました。栄えある受賞者は次の方々です。

1. 表彰状贈呈（個人）  
上野 晃、古割 千歳、新田 昭隆
2. 表彰状贈呈（団体）  
天理教島根教区中部支部出雲組、出雲土建株式会社  
出雲慶人会連合会
3. 感謝状贈呈（団体）  
天理教島根教区中部支部青年会、出雲市シルバー人材センター塩冶地域班、天理教災害救援ひのきしん隊島根教区隊中部支部隊、塩冶百寿会奉仕部、塩冶百寿会、揚東クラブ
4. 感謝状贈呈（ボランティアコンサート）  
フローラ室内管弦楽団、アンサンブル合歓の木、合唱団ラーナ・エコー、出雲弦楽合奏団、島根大学混

医療サービス課 患者サービス室  
声合唱団、木次乳業軽音楽同好会ギタレンジャー、山陰民謡と民踊の会、井谷 義弘、海 阿虎、飯国優子、林 宏美（敬称略）

贈呈式終了後、引き続きボランティアさんとの懇談会が行われ、皆さんから様々な提案や意見をいただきました。



小林病院長から表彰されるボランティアの方々

## ボランティア活動について

### ボランティアコンサート



2月9日 山陰民謡と民踊の夕べ

### 医療サービス課 患者サービス室



2月27日 海 阿虎 馬頭琴演奏会



3月6日 フローラ室内楽団演奏会

## 病院運営委員会の報告

平成24年1月18日

外来医長の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
皮膚科	外来医長	新原 寛之	澄川 靖之	平成24年2月1日

平成24年2月15日

病棟医長等の異動

診療科名等	職名等	新	旧	発令日
産科婦人科	病棟医長	折出 亜希	中山 健太郎	平成24年3月1日
	外来医長	今村 加代	折出 亜希	〃
消化器外科 肝・胆・膵外科 小児外科 乳腺・内分泌外科	病棟医長	山本 徹	平原 典幸	平成24年3月1日

## 研修会・講演会・学会等のお知らせ

名称	日時	場所	対象者	演題等	講師名	主催他
市民公開講座 家族を幸せにする睡眠講座	平成24年4月8日(日) 14:00~16:00	ビッグハート出雲 白のホール	一般市民・医師・ 薬剤師・看護師・ 大学院生・その他 メディカルスタッフ。	「いびき・睡眠時無呼吸はこんなにコワイ」 「睡眠障害と心不全」 「アレルギー性鼻炎と眠気」 「快眠方法のコツ」 快眠相談(15:30~16:00)	呼吸器内科 濱口 俊一 循環器内科 伊藤 早希 耳鼻咽喉科 青井 典明 精神科 河野 公範 各診療科の先生	島根大学医学部 附属病院睡眠ポ ード

お知らせ

### 編集委員会からのお願い

病院ニュースは年4回発行予定です。  
各診療科、各部門、事務部からの投稿をお待ちしております。取り上げてほしいニュース、PR、  
わが家のペットなどを編集委員会へお寄せください。

担当

医療サービス課 医療支援室(内線2068)

Email: [しろうさぎ専用アドレスです。 shirousag@med.shimane-u.ac.jp](mailto:shirousag@med.shimane-u.ac.jp)

(病院ニュースは、医学部ホームページの医学部掲示板にも掲載しております。)



# 特別室のご案内

快適な入院生活をすごしていただくために特別室はいかがですか？  
病室は単に治療する場ではなく、生活を送る場でもあります。より日常に近い環境の中でお過ごしいただくために、特別室を用意しています。

## 特別室の利点

- ・プライバシーが保たれ、落ち着いて療養することができます。
- ・面会者の方と、お部屋でゆっくりお話していただけます。
- ・テレビ・冷蔵庫は無料でご利用になれます。

## 個室料金：1日あたり室料（税込み）

特別室A： 12,600円

特別室B： 8,400円

特別室B（緩和ケア病棟）： 6,300円

特別室C： 5,250円

特別室E（A病棟3階1室のみ）： 4,200円

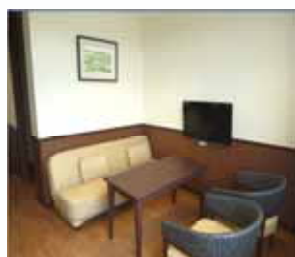
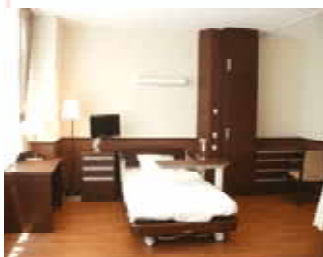
特別室D（4床室）： 1,575円

広々とした空間でご家族やご友人と大切な時間をお過ごしいただけます。

（基本設備）洗面台、トイレ、テレビ、電子冷蔵庫、クローゼット

### 特別室A

（その他設備）キッチン、バス、応接セット、テーブル、椅子、  
（テレビインターネット対応）、冷凍冷蔵庫、インターネット 1



### 特別室B

（その他設備）シャワー、ソファベッド、（テレビ  
インターネット対応）、インターネット 1



### 特別室C

（その他設備）テーブル、スツール、（テレビイ  
ンターネット対応）、インターネット 1



### 特別室D（4床室）

（その他設備）スツール、（テレビ  
インターネット対応）



### 特別室E



- 1 インターネットをご使用の場合は接続用の2m以上のLANケーブルが必要となります。  
各自ご準備願います。

なお、無線LANは使えませんのでご注意ください。

島根大学医学部附属病院

働く、輝く、笑顔で暮らそう。

SHIMANE UNIVERSITY HOSPITAL

# 看護師・助産師 大募集!

皆様のご応募お待ちしております。  
\*病院見学、随時受付中!(土日・祝日の見学も可能)

新規採用・中途採用、随時受付中!

インターンシップのご案内

平成24年

- 5月 1日(火)～ 2日(水)
- 5月 21日(月)～ 22日(火)

\* 6月以降も毎月2～3回開催します。

応募方法等詳しくは下記HPで!

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

島根大学病院

お問い合わせ先/医学部総務課人事担当

TEL.0853-20-2021

島根大学医学部附属病院

平成23年6月新病棟完成!

平成25年4月フルオープン!

既存病棟・外来棟全面改修

地域医療と先進医療が調和する大学病院

国立大学法人

島根大学 医学部附属病院